AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

漢方と最新治療 (2012.05) 21巻2号:123～129.

【不妊症と漢方】
不妊症診療における漢方の役割

加藤育民

特集
不妊症と漢方

不妊症診療における漢方の役割

加藤育民

Key words *infertility, Kampo Medicine, aging, menstrual disorders*

はじめに

不妊症の原因として，女性および男性生殖器の器質的因子並びに卵子・精子の問題およびホルモンなどの機能障害が挙げられる。近年，不妊治療法として生殖補助医療（ART）がめざましい進歩をとげているが，心理面や全人的とらえ方をする漢方薬と併用することで，更に妊娠の可能性が高まることが期待される。現代社会はストレスが多く，冷え，胃腸虚弱，肥満を併発し不妊症で悩む女性が増えてきている。

東洋医学的に生殖機能は，五臓六腑のうち「腎」機能が関与し，月経異常や不妊症は「腎虚」の病態であり，「気虚」・「血虚」・「瘀血」・「水毒」などの状況と合わさり個々の病態が出現する。「妊娠・出産」は，「卵・生殖器の老化」のみならず，生体全体のバランスの崩れ，心と身体の不調が関与することから個々の臓器を調節し，その機能を良好にすることが重要と考えられる。本稿では，不妊症診療における漢方の役割に関し概説する。

1．不妊症の要因と東洋医学的捉え方

全夫婦の約 10% が不妊症であるといわれている。不妊症の要因は，夫婦要因約 15%，女性要因約 40%，男性要因約 40%，原因不明約 5% といわれている。器官別，生殖機能別に分類することは非常に困難で両者を併用して分類されることが多い。代表的な要因分類として，器質性要因，機能性要因に大別される。また男女別の分類では，女性因子として卵巣因子・子宮因子・卵管因子・遺伝因子・心因因子などが，男性因子として，造精機能障害・遺伝因子・心因因子・勃起不全（ED）などが挙げられる。女性の器質性因子である子宮内膜症，子宮筋腫，卵管通過障害などは，生殖補助医療の発展とともにその対応が進み治療成績が改善されてきている。また女性不妊の機能性因子として，排卵誘発剤，顕微授精により妊娠にいたる症例が増えているものの，今尚原因不明の症例を多数認める。

このように西洋医学を主体とした治療が進んではいるものの，西洋医学的にとらえがたい機能性因子の異常や，原因不明の不妊症に関し，漢方薬

2012 年 2 月 20 日受理
KATO Yasuhito: Role of Kampo medicine in infertility treatment
旭川医科大学 産婦人科：〒 078-8501 北海道旭川市緑が丘東 2 条 1-1-1

図1　不妊の要因と東洋医学的捉え方

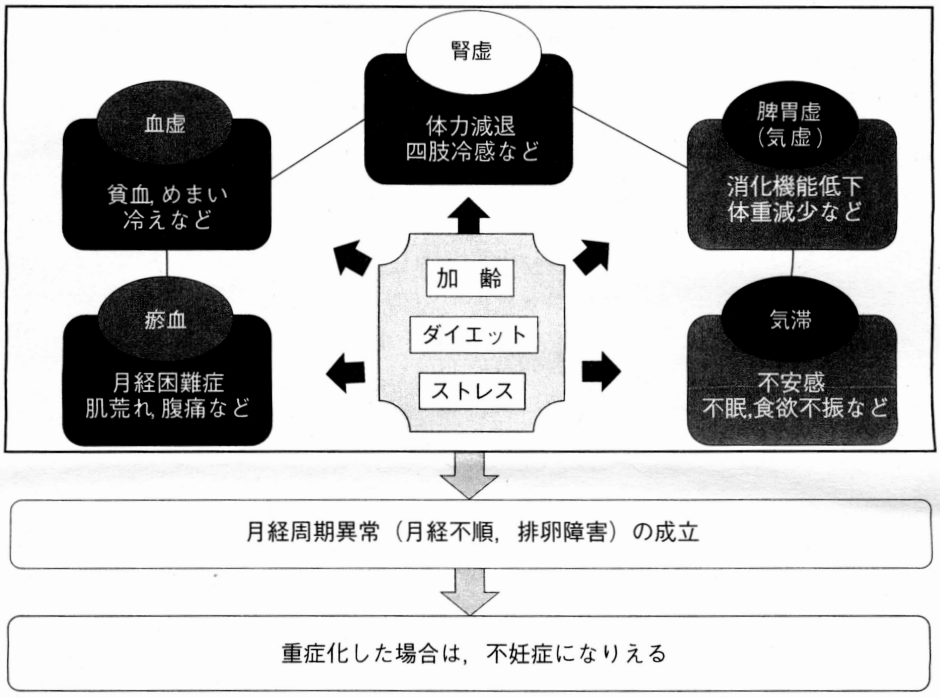

図2　女性不妊症の東洋医学的捉え方

が適応となることが多いものと推測する[1-3]。

東洋医学的には，不妊症は五臓六腑の不調和，気血水の不足が原因と考え，男女ともにその不調の改善により妊娠の可能性が高まるものと考えられている（図1）。漢方薬は組織の活動や休養を助け，色々な機能の障害や負担になる不要なものを取り除き，狂ったリズムを正常にする。「証」にあった漢方治療は，全身の機能並びに負担を改

表1　女性不妊症に頻用される漢方薬

腎　虚	・八味地黄丸
気の異常	・加味逍遙散，柴胡桂枝乾姜湯，柴苓湯など
瘀　血	・桂枝茯苓丸，湯経湯など
冷　え	・当帰芍薬散，当帰呉茱萸生姜湯など
胃腸障害	・六君子湯，補中益気湯，四物湯など
ストレス	・半湯厚朴湯，香蘇散，加味逍遙散， ・柴胡桂枝湯，四逆散など

善し妊娠にいたると考えられる[4]。

2. 東洋医学的診断を基にした女性不妊症に対する漢方治療

漢方治療による女性不妊治療の目的は，体内環境を「生命を育みやすい，栄養豊富で暖かい場所」に変えていく事ととらえられている。不妊症の女性は生殖機能を司る「腎」機能が低下した「腎虚」の状況で，体力減退，四肢冷感などが現れる。「腎虚」と共に「気虚」や「気滞」など「気」の異常が根底にある場合や「血虚」,「瘀血」などの「血」の異常を認める場合も多い（図２）[5]。

特に「腎虚」「血虚」から発来する『冷え』は,「未妊，不妊症や二人目不妊」に陥る最大の原因といわれている。「手足の冷え」という事ではなく，体内の臓器レベル（子宮･卵巣など）の『冷え』は，体内の血流障害を引き起こし，子宮・卵巣への栄養素の供給も不十分な状態に陥る。『冷え』の改善は，血流改善を導き，自律神経の安定化，体内の代謝を活性化する。子宮，卵巣への血流の増加は，子宮に対して安定した内膜を構築し，卵巣では卵の成長を促進，安定したホルモン分泌が見込まれる。更に各臓器の必須栄養素が増大し，不必要になったものが取り除かれ，妊娠に適した生理機能状況がもたらされる。

またストレス，胃腸虚弱，肥満や極端なやせなども不妊につながる可能性があり，こうした問題を漢方薬で解決しながら自然妊娠に至る症例も認める。個々の症状，原因は多彩であることからも腹診や脈診などの四診といった漢方医学的な診察は重要であり，その「証」に応じた漢方薬の選択は重要である（表１）[6-8]。

3. 東洋医学的診断を基にした男性不妊症に対する漢方治療

男性不妊症は女性不妊同様に生殖機能を司る「腎」機能が低下した「腎虚」の状況であり,「腎虚」と共に「気滞」や「気虚」など「気」の異常が根底にある場合が認められ,「肝鬱」,「痰湿」も認める場合も多い（図３）。生殖補助医療の発展とともに，近年では少数の生存精子でも妊娠が成立するようになったが，薬物療法により自然妊娠が期待される症例も存在する。男性不妊症の原因は，精巣静脈瘤，勃起障害，閉塞性無精子症，遺伝子異常など多岐にわたり約90%が造精機能障害で，その半数が原因不明といわれている。漢方薬とし

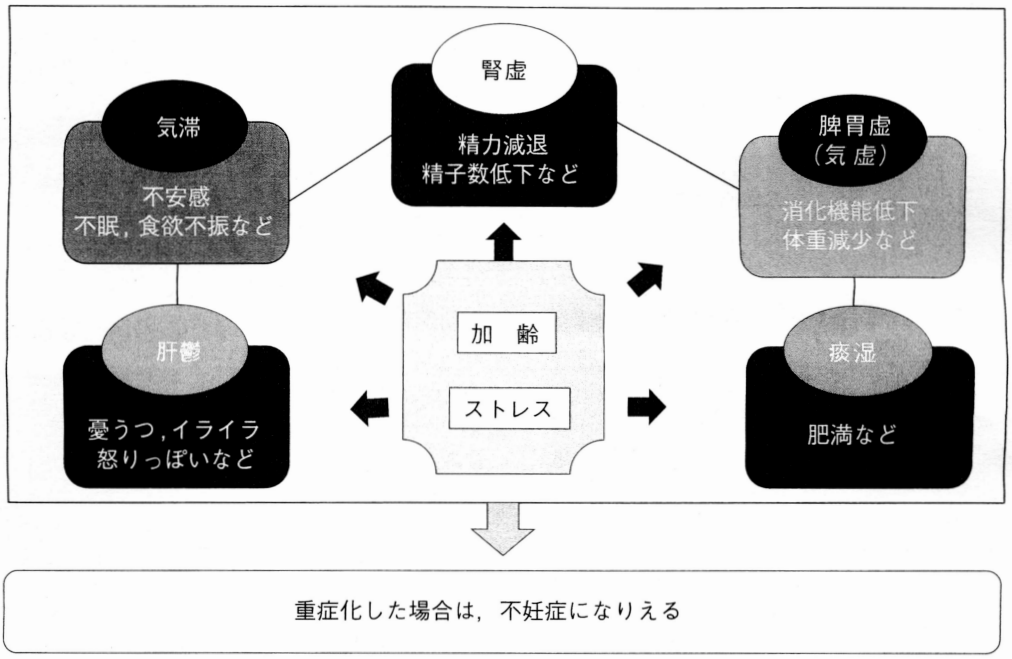

図3　男性不妊症の東洋医学的捉え方

て古典的には滋潤剤である八味地黄丸や補気剤の補中益気湯の服用がなされてきた。最近は牡蠣肉抽出ペプシドの有効性が認められ，牡蛎を含む柴胡加竜骨牡蛎湯や桂枝加竜骨牡蛎湯の有効性を示す報告も認める。柴胡加竜骨牡蛎湯は，やや実証タイプでストレスにより動悸を持つ症例に有効で，桂枝加竜骨牡蛎湯は，胃腸が弱く中間証から虚証の症例に処方することが多い[9-11]。

また八味地黄丸に下肢の血液循環と水分代謝改善を有する牛膝，車前子を加えた牛車腎気丸も精子能改善に有効とされている（表2）[12]。また「痰湿」である肥満も男性不妊に関与すると報告されており，防風通聖散なども有効と考えられる。

4. 加齢，現代社会のストレス

ライフスタイルの変化に伴って女性の結婚年齢，出産年齢の高齢化が進んでいる。日本女性の平均初婚年齢は1975年では24.7歳であったが，2009年では28.6歳と上昇している。初婚年齢の上昇とともに出産年齢も高齢化し1970年における35歳以上の高齢初産婦の割合は1.8%から2004年においては8.7%と急激に上昇している[13]。不妊治療において加齢による影響は，不妊因子の一番考慮しなければならない問題である。加齢は女性因子としての「卵の老化」および「生殖器の老化」を誘因し，滋養強壮に用いる八味地黄丸が有効とする報告が多い[14]。

また現代社会は，性別・年齢に関係なくストレスが多い。強いストレスは，気血水のバランスを崩し，心と身体の不調を引き起こし妊娠には不都合な環境となる。適度なストレスは人体そのものには必要ではあるが，強い場合はストレスを回避することが必要である。そのためにストレスに対する自己の許容範囲を広げることや精神安定は重要であり，代表的な漢方薬として，半夏厚朴湯，香蘇散，加味逍遙散，柴胡桂枝湯などが有効で，ストレスを持つ不妊症患者への処方としても効果を認めている[15]。

表2　男性不妊症の原因と代表的な漢方治療薬

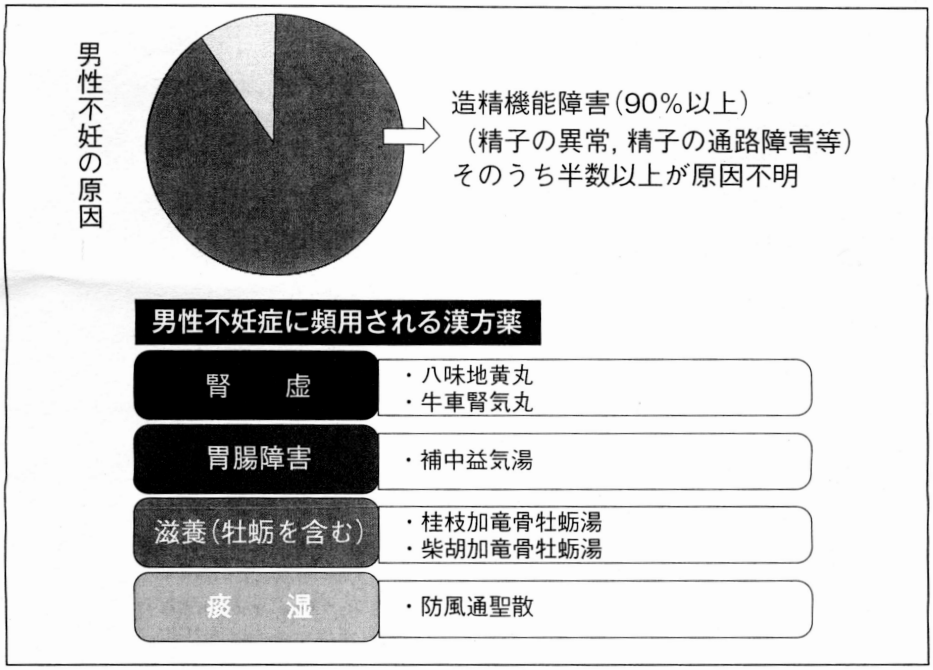

表3　『金匱要略』における温経湯および当帰芍薬散の概要

温経湯

『金匱要略』の婦人雑病の条文に「婦人小腹冷え，久しく胎を受けざるを主る。」とあり古来より不妊症治療を対象となる漢方方剤である。

当帰芍薬散

『金匱要略』に，妊娠して腹部が引きつれるように痛む時に用いる。効能として，「筋肉が一体に軟弱で疲労し易く，足腰の冷えやすい……」妊娠前，中，後に広く使われる。

5. 月経不順の治療継続から妊娠へ

月経不順の主な原因はホルモン分泌不全である。重症な症例は排卵障害を伴いこれを放置すると将来的に不妊となることから，早期に治療することが必要である。月経不順の要因として卵巣腫瘍や子宮内膜症などが挙げられ，西洋医学的治療が奏功することも多い。器質的疾患以外に虚弱体質，ストレス，貧血，過度のダイエットなどが要因となる場合も多く，漢方薬が奏功する症例も多数認める。

東洋医学的病態解釈として腎虚が中心にあり，血虚や瘀血を認める症例も多い。血虚，瘀血を認める場合は，補血，駆血を目的とした漢方薬が有

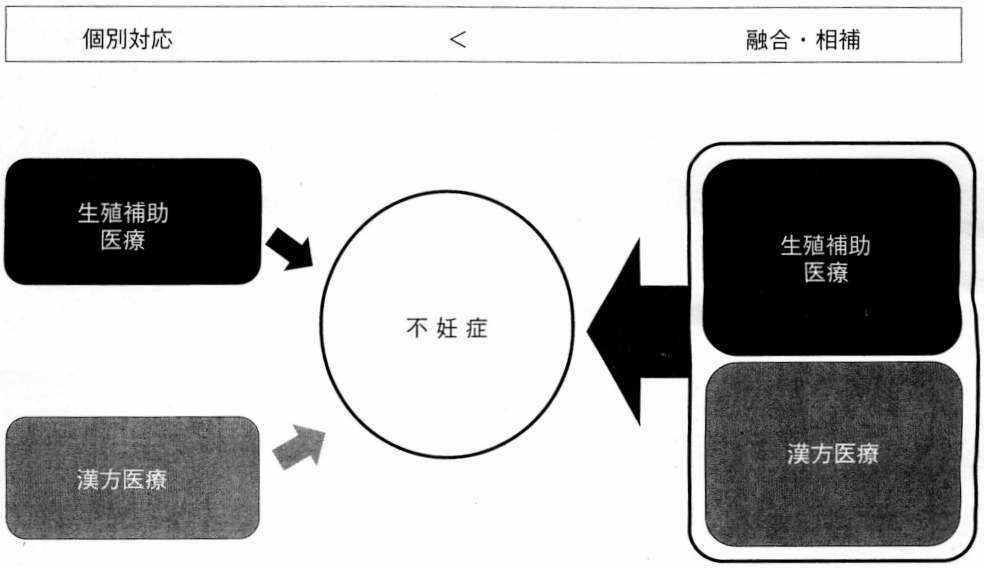

図4　生殖補助医療と漢方医療の融合・相補

効である。「気虚」や「気滞」など「気」の異常が根底にあり「心身症」の診断を受ける場合も認められる。また胃腸機能が弱く，便秘傾向で，体重が少ない症例も認め，六君子湯や四物湯などが有効と報告されている。

当帰芍薬散，温経湯は，『金匱要略』でも月経ならびに妊娠に効果があることが記載されており，古くから用いられてきた方剤である（表3）。当帰芍薬散および温経湯は，FSH，LH，エストラジオールの増加をもたらし，排卵障害の症例に有効性を認めている[16]。特に温経湯は，下垂体性ゴナドトロピンの律動性分泌パターンを改善し，卵胞成熟，排卵機構の改善と共に黄体機能が向上され，「証」という個人の特質を考慮しない解析法によっても効果のある薬であることが報告されている[17,18]。

当科では月経不順や月経困難症に対し温経湯の効果を報告し，妊娠に至った症例も経験している。月経の諸症状を早期に解決することは，不妊症の症例を減らすことになる可能性が示唆される[19]。

6. 生殖補助医療と漢方医療の融合・相補

不妊症に関する婦人科的，泌尿器科的診断および生殖補助医療は日々進歩している。このことからも東洋医学が西洋医学に代わるものではない。西洋医学治療である生殖補助医療と東洋医学的治療の漢方医療を個別に対応するのではなく，両者を上手く融合・相補しながら治療にあたることは，妊娠前後の経過を更に安定させることができるものと考える（図4）[20]。

おわりに

不妊症に対する西洋医学的治療の進歩は，日々進んできているが，今尚難治性不妊患者がいるのが現状である。漢方は全身の調和を目指し，ホルモンバランスを整え，月経の諸症状を改善し，その延長上の不妊の改善が期待できる。

漢方医療を西洋医学と対立するものと考えるのではなく，患者に安心感を与える治療法として患者の「証」にあった漢方薬を選択し東西融合する

ことで，妊娠・出産に至る症例が増えるものと考える。西洋医学的治療と相補しながら漢方薬を取り入れることは，今後益々日本における不妊治療に重要な役割を示すものと推察する。

文献

1) 早川 智，木下優子：不妊治療ハンドブック治療，原因不明の不妊症に対する漢方療法．産婦人科の実際 Vol.58-11: 1767-1772, 2009.
2) 西森婦美子：臨床漢方 漢方医学の最前線，子宮内膜症とその類縁疾患・子宮筋腫および不妊に対する漢方治療．医薬ジャーナル Vol.45-3: 933-937, 2009.
3) 後山尚久：生殖医学の進歩と生殖医療の限界．不妊診療における漢方の役割，産婦人科治療 Vol.83-1: 45-50, 2001.
4) 假野隆司，土方康世，清水正彦ほか：随証漢方療法で生児を獲得した卵巣機能不全不妊症100例の漢方医学的ならびに西洋医学的解析．日本東洋医学雑誌 Vol.59-1: 35-45, 2008.
5) 後山尚久：一般不妊検査・治療の再評価，臨床的意義と限界．女性および男性不妊症の漢方治療，産婦人科の実際 Vol.56-5: 753-757, 2007.
6) 森山俊武，村松宏恵：柴苓湯を併用することにより妊娠し得た4症例．医学と薬学 Vol.66-1: 123-128, 2011.
7) 安井敏之，苛原 稔：女性にやさしい漢方療法．不妊症と漢方療法，産婦人科治療 Vol.100-6: 1038-1044, 2010.
8) 西田愼二，蔭山 充，志馬千佳ほか：婦人科医療とこれからの漢方療法．不妊と漢方，産婦人科治療 Vol.98-1: 76-80, 2009.
9) 布施秀樹，渡部明彦，小宮 顕：エキスパートに学ぶ；漢方療法実践講座．処方の実際：2. 男性不妊；臨床婦人科産科 Vol.62-8: 1067-1071, 2008.
10) 島田和彦，柴原浩章，岡島 毅ほか：補中益気湯が無効の特発性男性不妊症患者に対する柴胡加竜骨牡蠣湯の効果．産婦人科漢方研究のあゆみ Vol.24: 64-66, 2007.
11) 宮崎綾子，辻 勲，網 和美ほか：精子無力症に対する“補中益気湯”の有効性に関する検討．産婦人科漢方研究のあゆみ 28: 52-54, 2011.
12) 碁石勝利，市原和夫，堀川道晴ほか：体外受精における牛車腎気丸の使用経験．産婦人科漢方研究のあゆみ 15: 102-105, 1998.
13) 内田美穂，和田高士：高齢妊娠を考える．加齢に伴う女性の身体的変化，産婦人科の実際 Vol.59-2: 143-151, 2010.
14) 志馬千佳，蔭山 充，志馬裕明ほか：アンチエイジングを目的とする“八味地黄丸”により妊娠に至った難治性不妊50症例の検討．産婦人科漢方研究のあゆみ 25: 99-105, 2008.
15) 志馬千佳，蔭山 充，中井恭子ほか：心身のストレスに対し“四逆散”を処方した不妊女性37例の検討．産婦人科漢方研究のあゆみ 28: 60-65, 2011.
16) 安井 敏，苛原 稔：産婦人科疾患に対する当帰芍薬散の使用方法，排卵障害（不妊症）に対する当帰芍薬散の効果．産婦人科漢方研究のあゆみ 22: 35-38, 2005.
17) 後山尚久：生殖医療の全て，視床下部-下垂体-卵巣系異常による女性機能性不妊症の病態と治療．医学のあゆみ Vol.204-13: 1003-1010, 2003.
18) 後山尚久：女性診療科医のための漢方医学マニュアル．永井書店，2003.
19) 加藤育民，千石一雄：月経不順ならびに月経困難症に対する“温経湯”の有効性について．産婦人科漢方研究のあゆみ 27: 76-80, 2010.
20) 金城貫亀，高宮城直子，中里和正：難治性不妊に対する現代医学と漢方医学の融合治療．産婦人科漢方研究のあゆみ 23: 95-99, 2006.